令和５年度　園評価まとめ

令和６年１月

1.　本園の教育目標

あかるく　かしこく　たくましく

・友達と仲良く、思いやることができる豊かな人間性を育てる。
・活動することの楽しさを体感し、学びのもととなる力を育てる。
・健康な体力、健全な生活を営むための望ましい生活習慣をつくる。

2.　本年度重点的に取り組む目標・計画

◎主体性を大切にし、『子どもが遊びこむ』機会や場の設定を工夫し、自分の思いを生かして遊ぶことが大好きな子どもを育成する。

〇4 本柱（英語・体操・音楽・絵画）においても、主体的な活動を重視し園児一人一人を大切にした質の高い教育・保育を目指す。

3.　評価項目の評価及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	B	・「のびのびウィーク」は、ゆとりのある期間は子どもの意図を生かした活動ができた。クラスミーティングの時間を設定し話し合いの時間を設け、月案をイメージマップ化することは、子どもの見取りから次の保育を展開することについて担任間の意思疎通ができ有意義であった。 ●課題 ・「のびのびウィーク」は三大行事前になると、主に４・５歳児組はその準備期間となってしまった。行事についても子どもの思いを生かした遊びを意識した実践ができるよう、改革を進めていく。
2	主体性を生かした保育、非認知についての研修をする	B	・園研修でパート職員を含む全員が「主体的な保育」を中心に共通理解できた。保護者の協力を得て、全員一斉に研修会や園内研修に参加する機会が増えたことは、有意義であった。 ・上教大附属の見学や近隣他園の保育について学んだことをパート職員とも共有し子どもたちの成長を振り返りながら自園の保育につなげていくこともできた。 ●課題 ・環境設定、見守り方などできること、してみたいことからスモールステップで実践してみる必要がある。
3	定期的に振り返り、改善を図る	B	・クラスミーティングで週ごとに子どもの遊びについて振り返り、イメージマップシートに記入することで、クラス担任間で相談しながら取り組みについて反省し、次週の活動に生かすことができた。 ●課題 ・ブレストにおいて、子どもの遊びやクラスの様子についてざっくばらんに話し合う雰囲気ではなかった。今後は、クラスの現状や関心ある遊びの共有ができるように、話し合いの機会を生かしたい。

評価（A…十分に成果があった　B…成果があった　C…少し成果があった　D…成果がなかった）

4.　総合的な評価結果

評価	理　由
B	今年度から「主体的な保育」をテーマに子どもの学びのもととなる「非認知能力」を育成することを目指してきた。園児が自分の思いを生かした遊びを楽しむことができた。幼稚園由来の認定こども園として、４本柱とのバランスに保育者が悩むこともあったので、今後は、子どもの見取りをもとに遊びを展開し、実践の後の考察を次につなげ、遊びを深化拡充することを目指したい。

評価（A…十分に成果があった　B…成果があった　C…少し成果があった　D…成果がなかった）

5.　今後取り組む課題

	課　題	具体的な取り組み方法
1	研修内容の重点化	子どもが主体的な遊びを展開し深化拡充できるようにするために研修を行ってきた。今年度は、「主体的な保育」について大づかみだったので、見取り、記録の取り方・考察の仕方、環境構成、幼保小の連携などが重点内容を絞って進めたい。
2	情報共有	園全体や他クラスの様子について情報を共有し、意見交換することができるようにブレストを設定したが、ざっくばらんの意見交換の機会とならなかった。できる限り考えを交換しやすいように工夫したい。

6.その他

・会議・研修、コロナ、災害などの対応で、保護者にお願いすることが多々あった。その度に理解協力を得ることができありがたかった。
・チーム保育が当園の特徴で一人一人の子どもを複数の目で見ることができる利点がある。反面、職員数が多く全員での情報共有・意見交換が困難である。次年度も、可能な限り機会を作りたい。また、少子化により園児数が減りつつある。（来年度は２・３号枠を増員し対応）職員の処遇改善が困難である。